

湖南省 武陵源の 張家界 で出会った樹木たち

日本山岳会会員・山形大学：野堀嘉裕

I. はじめに

中国 湖南省 では 1970 年代中頃に 張家界 などの景勝地が発見され、その後急速に観光開発が進んだ。張家界 国家森林公园は中国最初で最大級の国立森林公园であり 1982 年に設立された。面積は 130 平方キロメートルで、武陵山 に位置し、2,000 以上の巨大石柱があり、森林被覆率は 88% で、周囲は山に囲まれ、気候は温暖で湿度が高い。この地域には 黃石寨、沙道溝、金鞭岩、金鞭溪 などの景勝地がある。また、黃獅寨、金鞭溪、腰子寨、琵琶溪、砂刀溝、后花園、朝天觀 の 7 つの主要な観光ルートがある。



張家界国家森林公园の南門

張家界国家森林公园は生物多様性の宝庫で、木本植物だけでも 93 科 517 種以上が生育している。特に、ハトの木（珙桐）やイチヨウなどの貴重な国家保護植物や第三紀の遺存種であるメタセコイアなどが分布する、亜熱帯の森林生態系である。日本山岳会山形支部の有志 4 名は 2025 年 10 月 21～22 日に張家界国家森林公园を見学した。見学時に撮影できた樹木標識（15 種）を示すと同時に、日本の類似樹種と比較しながら公園内の樹木を紹介することにしよう。

II. 野生植物の保護

ところで、公園内の動植物は原則的に保護されており、標識には種名や学名のほかに保護レベルが記載されている。ここでは中国の野生生物保護について把握しておくことにしよう。保護レベルは次のとおりである。国家一级保護レベルは、中国の野生生物保護法または野生植物保護条例における最高レベルの法定保護であり、中国国内の絶滅危惧種、希少種、固有種を対象として

いる。関係する動植物は法律で厳重に保護されており、違法な殺害、収集、販売、取得は厳しく禁止されている。代表種にはジャイアントパンダ、シベリアトラ、シベリアモミなどがあり、その個体群や生息地の保護に重点を置いている。国家二級保護レベルは 一級に準じたものである。中国と日本の野生植物保護法（および関連法規）の主な違いは、保護対象の指定方法、規制の厳格さ、そして土地利用との関係性にある。中国は「国家重点」という強固な管理と開発優先の歴史背景から、日本では絶滅危惧種を指定する「種の保存法」を中心とした包括的な自然環境保全の観点から法制度が整備されている。中国では「国家が保護すべき貴重な資源」としてトップダウンで保護する傾向が強く、日本では「地域的な希少性」と「地域住民・利用とのバランス」を重視する傾向がある。次に示す水杉の場合、標識をみると保護レベルは「国家第一級」とされていることがわかる。

III. 針葉樹

①. 中国名：水杉^{スイサン}（保護レベル：国家一級）



和名：メタセコイア（アケボノスギ）

学名：Metasequoia glyptostroboides,

学名の由来：セコイア（Sequoia）はアメリカ先住民のチェロキー族の指導者、シクウォイア（Sequoyah）に敬意を表して命名されたもので、これにギリシャ語の接頭辞 "meta"（「後、変化した」という意味）を付けたもの。つまり「後のセコイア」「既存の）セコイアとは異なる」という意味。種小名の glyptostroboides「Glyptostrobus（スイショウ属、水松^{スイショウ}）に似ている」という意味。

分類：ヒノキ科メタセコイア属：落葉針葉樹

備考：1941年に古植物学者の三木茂により日本で化石属（絶滅種）として発表された。同時期、中国四川省磨刀溪村（現在は湖北省利川市）で神木とされていた木（「水杉」とよばれていた）の試料が王戦によって採集された。これを元に研究した胡先驩^{こせんしゆく}と鄭萬鈞^{ちんまんじゆん}はこの植物が、三木が記載したメタセコイア属に属すると考えた。1946年に胡先驩^{こせんしゆく}が生存するメタセコイア属の植物として発表し、その後1948年に胡先驩^{こせんしゆく}と鄭萬鈞^{ちんまんじゆん}がメタセコイア属の新種として記載した。1948年に米国の植物学者であるチェイニー（Ralph W. Chaney）が発見直後のメタセコイアの種子を持ち帰って播種育成した。1949年には昭和天皇に苗木と種子を献上。苗木は皇居の花陰亭^{かいいんてい}脇の林間に移植された。昭和天皇はアケボノスギと命名した。1950年には化石植物としてのメタセコイア属の提唱者である大阪市立大学教授の三木茂が結成したメタセコイア保存会に100本の苗が送

られ、保存会から日本国内の研究機関や自治体の植物園に配布された。現在では世界各地の公園、街路樹、校庭などに植えられている。2025年の現在、中国以外で植栽されたメタセコイアの樹齢は75歳より高齢なものは存在しない。その後、湖南省の武陵源^{ぶりょうげん}などでも自生地が発見された。晩秋になると赤褐色に紅葉するので、街路樹や公園では有名な景勝地になっているところがある。落葉高木であり、高さ10~20m、大きなものは高さ50m、幹の直径2.5mになる。日本の絶滅危惧種を指定する「種の保存法」からすると、森林公園内のどこにでも見られる水杉は「国家第一級」保護レベルに相当するの難解だが、標識設置木が植栽されたものではなく原生個体だとすれば「文化財保護法」による「天然記念物」だと考える方が理解しやすい。森林公園にはメタセコイアの他に珙桐^{こうとう}（ハンカチノキ）「中国のハトの花」とも呼ばれる国家第一級保護植物が存在しているが、メタセコイアだけでも遭遇することができたことは幸甚だったといえる。

②. 中国名：篦子三尖杉^{ビシサンカンシヤ}（保護レベル：国家二級）



和名：ビシサンセンサン

学名：*Cephalotaxus oliveri*

学名の由来：属名の *Cephalotaxus* は、ギリシャ語の「kephale (頭)」と「taxus (イチイ)」に由来し、雄花が球状の頭花を形成することから名付けられた。種小名の *oliveri* はイギリスの植物学者ダニエル・オリバー (Daniel Oliver) への献名。

分類：イヌガヤ科イヌガヤ属：常緑針葉樹

備考：常緑低木である篦子三尖杉^{ビシサンカンシヤ}は、古植物相、起源と分布の研究において非常に重要な研究対象となっている。美しい樹形と常緑の葉を持ち、環境美化のための理想的な観賞用希少樹種である。標高800~1800メートルの谷や岩場に分布している。ビシサンセンサンと日本のイチイ (*Taxus cuspidata*：一位/オンコ) はどちらも常緑針葉樹であり、扁平な線状の葉を持つため似ているが以下の点で明確に異なる。葉の形状・質感：篦子三尖杉^{ビシサンカンシヤ}は葉が長く (3-6cm) 湾曲して先端が鋭く尖り、質感が硬い傾向があるのに対し、イチイは葉が短く (1.5-3cm) 先端が短く尖り、比較的柔らかい質感。葉の配置・色：篦子三尖杉^{ビシサンカンシヤ}の葉は左右に綺麗に2列に並ぶが、イチイは枝を囲むように放射状または不規則な2列に並ぶ。色は、篦子三尖杉^{ビシサンカンシヤ}は深緑色、イチイは黒緑色でツヤがあるものやマットなものがある。種子 (実)：篦子三尖杉^{ビシサンカンシヤ}の実は大きく、熟すと緑色から茶褐色になるが、イチイの実は赤く熟し、甘い果肉で種子を包む形状となる。

③. 中国名：榧^{キョウ}（保護レベル：国家二級）



和名：シナガヤ

学名：Torreya grandis

学名の由来：属名の *Torreya* はアメリカの植物学者ジョン・トレ (John Torrey) の名前にちなむ。種小名の *grandis* はラテン語で「巨大な」「立派な」という意味。

分類：イチイ科カヤ属：常緑針葉樹

備考：東アジアの亜熱帯地域で自生する常緑高木。広葉樹林や山岳地帯に広く分布する。自然の生息地を超えて、シナガヤは世界中のさまざまな温帯地域に導入および栽培されている。日本のカヤに比べて葉が長く、先端が鋭くないため、触っても痛く感じにくい。材は橋梁、舟等に用いられ、種子を榧子^{ひし}、油を香榧油^{こうひゆ}と呼ぶ。

④. 中国名：罗汉松^{らかんしょう}（羅漢松^{らかんしょう}）（保護レベル：国家二級）



和名：イヌマキ

学名：Podocarpus macrophyllus

学名の由来：属名はギリシャ語の *pous* (足) と *karpos* (果実) に由来し、実の様子から名付けられた。種小名の *macrophyllus* (マクロフィラス) は、「巨大な葉を持つ」という意味のラテン語。

分類：マキ科マキ属：常緑針葉樹

備考：日本のイヌマキと同種。幹は灰白色で浅い縦溝ができる。葉は互生、扁平、線形、革質、上面深緑、下面淡緑。雌雄異株。花は、前年枝に腋生、雄花は黄白色円柱状の花穂をつけ、雌花は1個で、緑色。種子は帯紫緑色、球形。外側は微白粉におおわれ、下方の套皮は、はじめ濃紅色から紫色になりしぼむ。肉質で甘味があり生食できる。日本での分布は本州南部（伊豆以南）、四国、九州、琉球。

⑤. 中国名：马尾松（^{マビショウ}馬尾松）



和名：バビショウ

学名：*Pinus massoniana*

学名の由来：属名はラテン語で *Pinus* (松)、種小名の *massoniana* は馬尾松（マアウェイソン）の音から名付けられた。

分類：マツ科マツ属：常緑針葉樹

備考：いわゆる二葉松で樹皮は茶褐色を呈す。公園内では最も個体数が多いマツ類と思われる。葉の垂れ下がり方がバビショウはその名の通り長い葉（20～30cm）が重みで馬の尻尾のように垂れ下がるのに対して日本のアカマツ（*Pinus densiflora*）は葉の長さが10～20cmと短いのが大きな違いで、他は日本のアカマツに類似している。

公園内では次の写真のようにバビショウの樹幹に薬剤注入をしている個体が多数みられた。現在世界中で感染が広がっているマツノザイセンチュウの原産地は北アメリカ大陸であることが判明している。明治期以降の国際的な物流に紛れて日本に侵入したと考えられている。日本では1900年代初頭以降マツ属の樹木で松材線虫（マツノザイセンチュウ）病が大発生しているが、中国における松材線虫病は、1982年に南京で初めて報告されて以降、有用樹種のバビショウを中心に中南部へ急速に拡大している重大な森林病害である。マツノマダラカミキリが媒介し、乾燥や水分通導阻害により松を枯死させ、生態系や経済に甚大なリスクをもたらしている。中国政府はこれに対し厳格な検疫措置や抵抗性育種などの防除対策を講じている。写真はその一環と思われる。中国での材線虫病の発生が日本経由である可能性があり、国際紛争の種になる可能性を秘めているともいえる。新型コロナウイルス同様に種の拡散は地球規模でしかも急速に広がることを忘れてはならない。



薬剤注入標識

樹幹に薬剤を注入している状況

標識の原文

和訳

2025 年健康松树打孔注射保護

2025 年 健康松パンチインジェクション保護

编号:B3691

番号:B3691

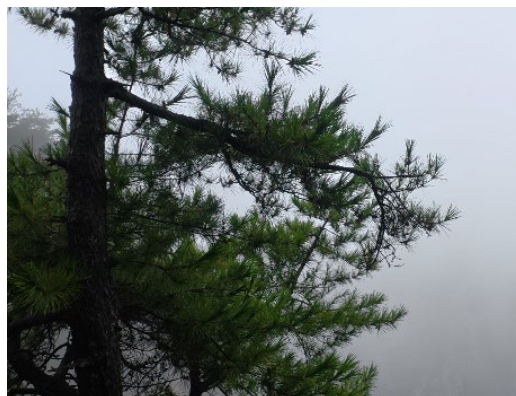
薬剤:3%甲無基阿维菌素苯甲酸盐

薬剤:3%メチルアベルメクチンベンゾエート

武陵源区自然资源和林业局

武陵園区自然資源林業局

⑥. 中国名：武陵松^{ブリョウショウ}



和名：ブリョウショウ

学名：Pinus massoniana var. wulingensis

学名の由来：変種 (var.) 名の *wulingensis* は、中国の武陵山脈 (Wuling Mountains) にちなんで名付けられた。

分類：マツ科マツ属：常緑針葉樹

備考：バビショウ (*Pinus massoniana*) の変種で中国の武陵山脈地域に特有の二葉松。乾燥した岩場や厳しい環境に適応し、原種よりも樹高が低く、葉が短く、球果が小さいのが特徴。主に盆栽や庭木として鑑賞される。バビショウと同様に材線虫病の蔓延が器具される。

⑦. 中国名：柳杉^{リュウシヤン}



和名：カワイスギ (河合杉)

学名：Cryptomeria japonica var. sinensis

学名の由来：属名の *Cryptomeria* は「隠された財産」、*japonica* は「日本の」意味、変種 (var.) 名 *sinensis* (シネンシス) は、「中国種」の意味。

分類：ヒノキ科スギ亜科スギ属：常緑針葉樹

備考：スギ (*Cryptomeria japonica*) は日本の固有種 (または自生種) として知られる。日本全土で植林されており、太平洋側のオモテスギ、日本海側のウラスギという変異がある。柳杉 (*Cryptomeria japonica* var. *sinensis*) は主に中国南部からベトナムに分布する変種といわれている。日本のスギを「隠れた宝」と呼ぶのに対し、中国では「柳杉 (りゅうさん)」と呼ばれる。カワイスギは、日本からの持ち込まれた可能性が高いと長年議論されているが、中国の自生個体群として扱われることもある。形態の違いは葉で、*japonica* は鎌状の針形で、枝にらせん状に密生。var. *Sinensis* は葉が強く内側に湾曲し、主枝に対して 15~30 度、より傾斜した角度で付く。枝や針がやや柔らかい印象を与えることが多い。日本のスギのウラスギタイプと類似している。当方は日本のスギと区別ができなかった。天然更新による実生が多数見られた。この亜種は一般的に成長が早く、葉が短く、球果が小さいといった形態的な違いがあるが、中国国内でもこの種による花粉症が報告されている。特に植栽の多い地域では季節的なアレルギー疾患の原因となっている。



天然更新の実生

⑧. 中国名：杉木^{シャム}



和名：コウヨウザン

学名：*Cunninghamia lanceolata*

学名の由来：属名の *Cunninghamia* は植物学者 Cunningham に、種小名の *lanceolata* は「槍の刃のような (披針形^{ひしんけい}の)」という意味に由来する。

分類：ヒノキ科コウヨウザン属：常緑針葉樹

備考：中国南部に自生し、日本など世界各地で植栽されている。成長が速く中国では重要な造林樹であり、材は耐朽性が高くさまざまな用途に用いられている。葉は水平に伸びる枝にらせん状から 2 列状につき、扁平で長披針形、先端は尖っており触ると痛い。"花期"は春、球果は秋に成熟し、らせん状に配置した多数の鱗片からなる。中国名の柳杉 (和名：カワイスギ (河合杉)) と杉木 (和名：コウヨウザン) と日本の杉 (スギ) の名称が混乱しやすい。

IV. 広葉樹

⑨. 中国名：枫杨 (楓楊)



和名：シナサワグルミ

学名：*Pterocarya stanoptera*

学名の由来：属名の *Pterocarya* はギリシャ語で「翼のある堅果」、種小名の *stanoptera* は「狭い翼のある」を意味し、果実や葉の特徴を表している。

分類：クルミ科のサワグルミ属：落葉広葉樹

備考：中国原産の落葉高木。雌雄同株で花期は5月頃、雄花は黄緑色、雌花は黄緑色で柱頭は紅色。公園樹、街路樹として植栽される。葉の構造をみるとシナサワグルミは偶数羽状複葉、日本のサワグルミは奇数羽状複葉。果実の翼の形状も大きく異なる。シナサワグルミは成長が早く、葉の軸に翼がある一方、サワグルミは溪流沿いに自生する高木で葉の軸に翼はない。

⑩. 中国名：南酸枣



和名：チャンチンモドキ (香椿擬)

学名：*Choerospondias axillaris*

学名の由来：属名の *Choerospondias* は、ギリシャ語の *choiros* (豚・豚肉) と *spondias* (プラム) の合成語で、果実が豚の好物である、あるいは形が豚に似ているプラムといった意味に由来する。

種小名の *axillaris* は「腋生の」を意味し、葉の脇に花が付くことに由来する。

分類：ウルシ科チャンチンモドキ属：落葉広葉樹

備考：日本のチャンチンモドキと同種。和名の別名はカナメノキ。センダン科のチャンチンに似ていることからチャンチンモドキの名がある。チャンチンモドキの花は赤褐色、チャンチンの花は白色ということで容易に判別できる。熊本県、鹿児島県、中国南部、東南アジア北部、ヒマラヤに分布する。雌雄異株の落葉高木。樹高は20mほどになる。灰紫褐色の樹皮は、縦に裂けて薄く

はげ落ちる。葉は互生する ^{うじょうふくよう}羽状複葉で小葉は ^{らんじょうちようだえんけい}卵状長楕円形、長さは 25-35cm になる。5 月頃に暗紫色から赤褐色の花弁が 5 枚の花を咲かせる。雄花は 5mm ほどの大ききで ^{えんすいかじよ}円錐花序につく。雌花は 8mm ほどの大ききで、花柄に 1 つつく。外皮が黄色で楕円形の果実ができる。果実には酸味があり、ブータンとネパールでは果物として食用とする。

⑪. 中国名：^{ウーガンリ}乌冈栎



和名：ウバメガシ（姥目櫂）

学名：*Quercus phillyraeoides*

学名の由来：属名の *Quercus* はラテン語で「オーク（カシ・ナラ属）」、種小名の *phillyraeoides* は「モクセイ科のフィリラエア（*Phillyrea*）属に似た」という意味。

分類：ブナ科コナラ属

備考：日本のウバメガシと同種。常緑広葉樹の低木から高木で、高いものだと 20m 近くまで成長するが、通常は 5~6m 程度の低木が多い。樹形は、ごつごつしていて、樹皮は黒褐色で独特の縦方向のひび割れが入り、短冊状に剥がれる。一年枝には黄褐色の柔らかい毛が密生し、後にもやや残る。海岸にある群落は、枝が密に出ていて灌木状に密に絡む。葉は互生するが枝先には輪生状につき、長さ 3~6cm の倒卵形で、やや表側に盛り上がり、葉縁には波状の鋸歯がある。葉身は革質でやや厚くて硬く、表面は濃緑色でやや光沢があり、裏面は淡緑色をしている。

⑫. 中国名：^{フオンファムーリエン}红花木莲



和名：モクレンモドキ（木蓮擬）、別名：ベニバナモクレン（紅花木蓮）

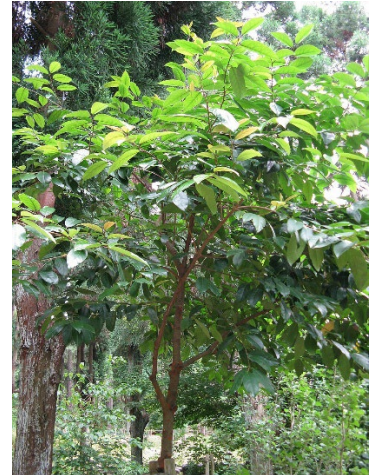
学名：*Manglietia insignis*

学名の由来：属名の *Manglietia* は原産地での現地名に由来し、種小名の *insignis* は「素晴らしい」「目立った」という意味。

分類：モクレン科モクレンモドキ属：落葉広葉樹

備考：モクレンモドキ属は世界に 25 種分布し、インシグニス^{ダイエグイニイン}は中国の西部からヒマラヤ、ミャンマーにかけて分布する常緑高木。モクレンモドキの花は日本のモクレン、コブシに似る。毛におおわれた芽鱗^{がりん}に包まれた冬芽^{とうが}は、葉を落とした枝についているカプセル状となる。冬芽を分解すると、中には小さく折りたたまれた葉や花の蕾が入っている。コブシやモクレンの花穂を連想させるのがインシグニスのコーヒー色の芽で、冬の陽の光を浴びてとても暖かそうに見える。

⑬. 中国名：大叶桂樱^{ダイエグイニイン}



和名：バクチノキ（博打の木）、別名：ピランジュ（毘蘭樹）

学名：*Prunus zippeliana*

学名の由来：属名の *Prunus* はラテン語で「スモモ」を意味し、サクラ属の植物を指す。種小名の *zippeliana* はオランダの植物採集家 Alexander Zippelius（アレクサンダー・ツィッペリウス）への献名。

分類：バラ科サクラ属：落葉広葉樹

備考：日本のバクチノキと同種。樹皮は灰白色で、絶えず古い樹皮が長さ数 10cm 程度のうろこ状に剥がれ落ち、黄赤色の幹肌を現す。本種の名は、これを博打に負けて衣を剥がれるのにたとえたことに由来する。葉は 10~20cm の長楕円形で深緑色、縁には鋭鋸歯^{えいさよし}、洋紙状革質^{ようしじょうかくしつ}。葉柄の上部に一对の腺がある。秋、径 6mm の白色の五弁花を葉腋に出る短い花穂に密につける。果実は黒紫色で、翌年初夏に成熟する。プルナシン等のシアン化水素（青酸）配糖体を含む葉から「ばくち水」と呼ばれる液をとり、鎮咳^{ちんがい}・沈静^{ちんせい}の薬として使われることがある。日本では関東以西の本州、四国、九州、沖縄の暖地に生育する。

⑭. 中国名：交让木^{ジャオランムー}



和名：ユズリハ

学名：*Daphniphyllum macropodum*

学名の由来：属名の *Daphniphyllum* はギリシャ語の「月桂樹 (*Daphne*)」+「葉 (*phyllon*)」で月桂樹に似た葉を持つ意味、種小名の *macropodum* は「長い柄」を意味し、赤い長い葉柄を持つ特徴を表している。

分類：ユズリハ科ユズリハ属：常緑広葉樹

備考：日本のユズリハと同種。常緑高木で春に新しい葉が出ると古い葉が場所を譲るように落ちて生え替わるようすが特に目立つことが特徴で、和名の由来になっている。花の形態がトウダイグサ科に似るので、古くはトウダイグサ科に含められたが、雌蕊が2個（トウダイグサ科は3個）などの違いから、独立のユズリハ科とされた。APG 分類体系（DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列の違いから生物の系統関係を調べる分子系統解析）ではユキノシタ目に入れられている。

⑮. 中国名：灯台樹^{デンタイシユウ}（燈臺樹）



和名：ミズキ

学名：*Cornus controversa*

学名の由来：属名の *Cornus* はラテン語で「角（つの）」を意味する *cornu* に由来する。これはミズキ属の木の材質が非常に硬いことを象徴している。種小名の *controversa* は「疑わしい」「議論の余地がある」といった意味を持つ。これは、ミズキ属の他の種が通常「^{たいせい}対生（葉が向かい合っ

てつく）」であるのに対し、ミズキは「^{ごせい}互生（葉が互い違いにつく）」という珍しい特徴を持つことから付けられたといわれている。

分類：ミズキ科ミズキ属：落葉広葉樹

備考：日本のミズキと同種。横に枝を伸ばし、階段状の樹形が特徴。葉は枝先に集まってつき、晩春に白い小花を密に咲かせる。和名「ミズキ」は漢字で「水木」と書き、早春に地中から多くの水を吸い上げて、枝を切ると大量の水のような樹液が流れ出ることに由来し、「水の木」から転訛したとされる。別名ではクルマミズキ、ハシノキともよばれる。クルマミズキの別名は、枝が輪性^{りんせい}状に分枝することによる。日本では、北海道、本州、四国、九州に分布し、日本国外では、朝鮮半島、台湾、中国からヒマラヤのアジア南部、南千島にまで広く分布する。庭木などに植えられるほか、こけし材としてもよく知られる。

V. おわりに

張家界で出会った樹木は日本の種と同じものまたは近縁種が多いことがわかった。本稿で紹介した15種のうち日本に分布しているものと同種のもの6種、類似種は7種、日本に移植されているものは2種であった。同種や近縁種の樹木種が多いということは気候にも類似性があり景観が類似することに他ならない。張家界と日本の景勝地の大きな違いは地形によるものと考えられる。張家界の景観に関しては別に記載することとする。

1. 同種の樹木

- | | |
|---------------------|-------------|
| ④中国名：罗汉松(ラクンショウ) | 和名：イヌマキ |
| ⑩中国名：南酸枣(ナンサンザオ) | 和名：チャンチンモドキ |
| ⑪中国名：乌冈栎(ウガンリー) | 和名：ウバメガシ |
| ⑬中国名：大叶桂樱(ダイエグイニイン) | 和名：バクチノキ |
| ⑭中国名：交让木(ジャオランムー) | 和名：ユズリハ |
| ⑮中国名：灯台树(デンタイシュウ) | 和名：ミズキ |

2. 近縁種の樹木

- | | |
|-----------------------|-----------|
| ②中国名：篋子三尖杉(ビシサンカンシャ) | 近縁種：イチイ |
| ③中国名：榧(キョウ) | 近縁種：カヤ |
| ⑤中国名：马尾松(マビショウ) | 近縁種：アカマツ |
| ⑥中国名：武陵松(ブリョウショウ) | 近縁種：アカマツ |
| ⑦中国名：柳杉(リュウシャン) | 近縁種：スギ |
| ⑨中国名：枫杨(フォンヤン) | 近縁種：サワグルミ |
| ⑫中国名：红花木莲(フォンファムーリエン) | 近縁種：モクレン |

3. 日本に移植されているもの

- | | |
|----------------|-----------|
| ①中国名：水杉(スイサン) | 和名：メタセコイア |
| ⑧中国名：杉木(シャームー) | 和名：コウヨウザン |

参考文献：本稿では下記を参照しています。

百度百科：<https://baike.baidu.com/item/>、Wikipedia：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>、

林野庁：<https://www.rinya.maff.go.jp/>、Google Gemini：<https://gemini.google/>